

学生の社会的活動報告

仁愛女子短期大学 生活環境専攻・幼児教育学科

フクイ夢アート 2014

【JSDハロウィンパーティー】

生活環境専攻 2回生 前田 恭伽

毎年テーマに合わせて仮装をして駅前を歩き回り、用意したお菓子を配るイベントです。今年は「ゾンビモンスター」ということでグロテスクなメイクや服装に変身した環境生が多く、駅前がまるでゾンビたちに支配されたかのような様子でした。お菓子をあげる場面では、子供がおもわず泣き出してしまうくらいで、私たちはもちろんでしたが、駅前にいた方も小さなエンターテインメントとして楽しんで頂けたのではないかと思います。私は今年で二回目のハロウィンパレードでしたが、年々仮装のクオリティーがあがっていると思います。これはイベントに力を入れる環境生の意気込みが表れているのではないのでしょうか。私たちの仮装を見て「怖い!」「すごい!」「そのメイクどうやっているのですか?」などと声をかけてくれる方がいて話をする機会が多かったです。見ている方にも楽しんで頂き、会話のきっかけになることがこのイベントの醍醐味なのではないかと感じました。このように、人と人とが繋がるようなイベントが駅前に増えることで、活性化に繋がっていくと思います。ハロウィンパーティーは私が卒業してからも後輩達によってより盛り上げていって欲しいです。



図1 ガレリアにて

【りめんばる〜ん】

生活環境専攻 2回生 大田 磨柚

このプロジェクトは参加型のもので、ピンクの風船に「自分が大切にしている記念日・誕生日」などを書き込んでもらい、仁短環境生と大切な日を共有し繋がろうというものです。共有することで中々触れ合うことができない一般の方と仁短との繋がりをつくり、もっともっと仁短のことに生活環境専攻のことを知って頂くため夢アートに参加しています。風船には好きなことを書いていただけるので、小さなお子様からご年配の方まで幅広い層の方に参加していただくことができました。印象的だったのは、ご年配の方で、誕生日と思われる数字を書いていらっしゃったので、「お誕生日ですか?」とお聞きすると「はい、孫の誕生日なんです。何を書こうか考えたら、一番に思い浮かんだのが孫の顔でした。」と嬉しそうな笑顔で答えてくださいました。このように、自分の記念日や誕生日を書くのではなく自分の大切にしている人、大切に思っている人の誕生日などを書いてくださる方もいらっしゃいました。自分のことを考える前に大切な人のことを思い書いてくださる方を見て、胸が熱くなりました。相手のことを想っていらっしゃる方々の表情はとても柔らかく、とても良い表情でした。想われている方はとても幸せなんだなと心が暖まりました。このプロジェクトを通し学んだことは沢山あり、地域の人々と大切な思い出をこの夢アートで共有できたことを嬉しく思い、私たちにとっても良い経験になり来年にも引き継いでいってほしいと思いました。



図1 りめんばる〜んに参加している子供たち

【Day*J】

生活環境専攻 2回生 上野 万弥

「Day*J」とは私たち生活環境専攻の学生が企画したフタイ夢アートでの催しの一つです。一般の人が、「りめんばる〜ん」を持って、Jのポーズをいすの上でとり、チェキで写真をとって、それに自分の大切な日を書いてデコレーションしてもらい、壁に貼っていってもらって催しです。

壁はマスキングテープなどで仁愛女子短期大学生が月ごとにデコレーションしており、そこに写真を貼っていく作業はとても楽しいものだと思います。自分の誕生日を書いて貼る人が多く、大人から子どもまで様々な方に参加していただけて壁がにぎわいました。友達にも参加してもらいたいと、後日お友達を連れてイベント会場に来てくださった方もいてとても嬉しかったです。

企画名の「Day*J」は私が考えました。企画内容は、すでに決まっていたどんな名前にしようかと考えたとき、そのとき頭の中で流れた音楽が名前の由来です。流れた曲は大ヒットディズニー映画「アナと雪の女王」のエンディングテーマ「ありのまま」です。映画の途中の歌は「松たか子」さんが歌っていますが、エンディングは「May J.」さんが歌っています。頭の中で写真に書く「日付」という字と仁愛女子短期大学の「J」、被写体の「自分」という字が浮かんでいたので、それらを組み合わせて、「May J.」さんの名前の発音に近い「Day*J」という名前を作りあげました。「May J.」さんの名前に近いことだけあってゴロがいいです。

最終日には、壁は写真で賑わい、たくさんの人の笑顔が並びました。たくさんの人が参加して完成する「Day*J」というアートは完成しました。カラフルでとても可愛いポップな作品になりました。

この企画で私は、たくさんの人がかかわって一つの作品を作り上げる素晴らしさを学びました。



図1 Day*j 8月と9月と10月

【図録ワークショップ】

生活環境専攻 2回生 堀元 葉月

期間中、夢アート会場のあちこちを巡って様々なアートイベントを記録して期間終了後に図録として一冊の冊子にしました。夢アートの期間中に開催されているたくさんのアートイベントを記録することはとても大変でした。あちこち移動するアートイベントの開催場所を探したり、一日限定のアートイベントに参加したり、と楽ではなかったように思います。しかし、どのアートイベントもとても興味深く、面白いものだったので勉強にもなったし記録するのも楽しかったです。

期間終了後に記録したものを図録に編集した時、改めて自分たちはまだまだ学ぶことがたくさんある身なのだと実感しました。自分たちで記録した写真を仕分けるのも一苦勞で、冊子のページを作るのは写真を仕分けるよりもっと大変でした。作業を重ねていくうちに綺麗に出来上がっていく冊子を見て達成感を感じる一方で、卒業後の自分のことを考えさせられました。私は卒業後、印刷関係の仕事に就くことになっています。今回編集をしてみてもうまいかないときに、毎回こういう編集をしているプロってすごいんだなと思いました。それと同時に自分はまだまだなんだなと思わずにいられませんでした。卒業後に不安を感じました。しかし、うまくいかなかったところもできなかったところも今、まだ学生のうちにわかってよかったですとすごく思いました。

多くのことを学ぶいい経験になりました。



図1 作品を記録している様子

春江中部の新広報誌「わ!ちゅうぶ」の ロゴマークをデザインしました。

生活環境専攻 2 回生 竹澤 栞

私は春江中部地区の新広報誌「わ!ちゅうぶ」のロゴマークをデザインしました。「わ!ちゅうぶ」とは市民協働のまちづくりに取り組んでいる「春江中部まちづくり協議会」と「春江中公民館」の広報誌が2014年夏に合併発刊されたのを記念して、新しい広報誌のタイトルと題字デザインを公募したものです。このロゴマークを制作する上で私が一番重要視したのはロゴマークの募集要項にあった『まちづくり協議会のキャッチフレーズは「住みたくなる優しい街 春江中部」です。このまちに住む住民みんなが手をつなぐ「輪」と「和」のイメージを印象づけるものを求めます。』というところです。形は「輪」が春江中部を包み込むデザインで春江中部が一つになっているところをリボンのような結び目で表現しました。また、色は春江中部地区が文化・行政・商業の中心というところから明るく活発であり、春江中部の人たちの温かさ、今まで培ってきた文化を表現するためにロゴのような赤色をセレクトしました。私のデザインしたロゴマークがホームページや各種広報物など春江中部地区のまちづくりで使用されるのでとても嬉しいです。そして、これからも長く使われるロゴマークなので春江中部とひとつになり、たくさんの人に長く愛されるロゴマークになってほしいです。



図1 わ!ちゅうぶロゴマーク

結姫プロジェクトとして 着物リメイクキットの研究・開発しました。

生活環境専攻 2 回生 東 香里

結姫とは、企業との共同開発として考案した、古着の着物をリメイクすることで人と人のつながりを結び、人と着物を結び、過去と現在を結ぶことを目的としたキットのことです。また、そのキット考案に関わったメンバーのことを示します。

このプロジェクトで私たちは、結姫の裁縫キットを考えることはもちろん、その結姫というネーミングからロゴマーク、パッケージや作り方の説明書、宣伝用の映像等、全てのことを自分たちで一から考え、関わっていくことができました。こういった全てのことに関わっていくということができたのも、様々な分野のデザインを学ぶという、仁愛女子短期大学 生活環境専攻の特徴があったからこそできたことだと思います。最終的に提案した商品は、「巾着袋になるのし袋」^(図1)「うさぎのあずま袋」^(図2)「あそび広がるぬいぐるみ」^(図3)の3つです。どれも他にはないような工夫がされています。また、ロゴマーク、パッケージ、作り方や映像には、共通性を持たせるために同じ赤色を使用したり、自分たちのキャラクター^(図3)を作っているところや登場させたりと、遊び心のつまったものになっています。

こうして自分たちが開発に関わったキットが実際に商品として販売されることになります。このキットを作り、誰かに贈ることによってその人との結び目をつくり、人とのつながりを広げていってほしい。そんな私たち結姫の想いがつまった、結姫キットがたくさんの人に届けられることを楽しみにしています。



図1 巾着袋になるのし袋



図2 パッケージ



図3 結姫のキャラクター

由利佳一郎氏プロデュース 福井の「匠」ファッションショーに出演。

生活環境専攻 2 回生 小林 加奈



図1 集合写真

福井の「匠」ファッションショーでは福井が誇る七つの伝統工芸を使用したファッションショーが行われました。世界的靴デザイナー「由利佳一郎」さんと福井県内の若手伝統工芸職人の新団体「七人の侍」とセーレン「マッシュマニア」によるコラボファッションショーでした。

モデルという経験はなかなか出来ないもので緊張ばかりでした。しかし休み時間にウォーキングやポージング練習を行ったことで本番では上手くいきました。ウォーキングはパリコレに出ているモデルさんを見習ったのですが音楽に合わせて歩く事は簡単なようで難しく普段の歩き方とは違うので苦労しました。本番では歩く直前まで緊張していましたがウォーキングを終えた友人が楽しそうな顔をしていたのを見て自分も楽しもうという気持ちで歩くことができました。本番を終えた後、観に来てくれた

友達から「かっこよかったよ!」と声をかけてもらえてとても嬉しかったです。それと同時にこのファッションショー自体も大成功で終わってよかった、参加出来てよかったなと思いました。由利佳一郎さんの靴、青山眼鏡さんの眼鏡、山西浩二さんの帽子、セーレンの女性洋服ブランド「マッ



図2 ランウェイを歩きました。

ッシュマニア」など世界的デザイナーの商品を身近に触れる機会があまりないのでこのようなイベントで素材や作り方、デザインなどを知る事ができ今後の自分のデザインに活かしていこうと思いました。また、様々なデザイナーさんとデザインや人生経験談をお聞きする機会があり貴重なお話を聞く事ができとても良い刺激になりました。

たくさんの人が繋がり関わっていくことで出来ていった素敵なファッションショーになりました。

西武福井店主催イベント「メニーメニーミッフィー」の オリジナルミッフィーをデザインしました。

生活環境専攻 2 回生 橋本 春菜

ゴールデンウィーク期間中に福井西武店で「メニーメニーミッフィー ミッフィーの楽しいこといっぱい!」が開催されました。このイベントに生活環境専攻学生がデザインしたオリジナルミッフィーを出品しました。かわいいものからちょっとびっくりするものまで最初真っ白の姿だったミッフィーが、人の手が加わることでこんなにも多くの種類のミッフィーになったことに感動しました。そして自分オリジナルのミッフィーを制作できたことは発想を刺激する良い経験になりました。また、この時に制作したミッフィーをフクイ夢アートのJSDプロジェクトでも展示したところ、とてもたくさんの人の目に留まり「すごい!」「このミッフィーが好き」「これらは売っていないのですか?」と言う声を多く聞きました。自分たちのデザインに対する評価を直接聞くことができとても嬉しく思いました。そして、このように様々な人を喜ばせてくれるデザインの力を再認識することができました。



図1 福井西部店での展示風景

三國湊 帯のまち流し

生活環境専攻 2 回生 牧田 智香・高橋 由季子

帯のまち流しとは、毎年9月に坂井市三国町で行われている、三国節に合わせて踊り手たちが街を踊り流すお祭りです。私たちは、踊り手が着用する浴衣と手ぬぐいのデザインをして欲しいという依頼を三國會所よりいただきました。

浴衣をデザインするにあたって、三国は一体どういう街で何があるのか調べるところから始めました。三国の名所や特産品、歴史など現地に行き、浴衣にそういった要素を盛り込みたいと思いました。そこで、かつて三国で栄えていた北前船と、三国節の歌詞から連想される情景浴衣のデザインに落とし込みました。

手ぬぐいは、三国の有名な海水浴場であるサンセットビーチをもとにデザインをしました。幼い頃からなじみがあり、夕日が美しいサンセットビーチを表現しました。本来は手ぬぐいのデザインも浴衣のデザインを使う予定でしたが、浴衣と手ぬぐい別々に採用していただけた事がとてもうれしかったです。

本番当日では、多くの方が自分たちのデザインした、浴衣や手ぬぐいを身につけていた事に感動しました。三国は伝統的な町並みや文化が今でも残る街です。そうした文化を浴衣や手ぬぐいの柄として表現でき、伝えられたのが良かったと思います。地元の行事と直接関わることができ、とても良い経験になりました。自分たちの後輩にも、こういった活動にさらに関わって地元の良さを感じ、伝えていってほしいです。



図1 実際の浴衣と手ぬぐい

じんあいこどものくに

幼児教育学科

◆概要

日時：平成26年10月18日（土）9:30～16:00

会場：仁愛女子短期大学 F館

幼児教育学科では、毎年の大学祭において子ども向けのアトラクションを集めた「じんあいこどものくに」と題する企画を催しています。この企画は、学生が主体となって子どもたちが楽しめる遊び場を企画・準備・実践する学びの機会として位置づけられています。ここでは、今回の取組の内容についてご紹介します。

◆クラス別開催内容

- 1回生Aクラス おつかいゲーム
- 1回生Bクラス キャラクター探し
- 1回生Cクラス 子どもアスレチック
- 2回生Aクラス 縁日
- 2回生Bクラス 風船・折り紙教室
- 2回生Cクラス 劇「おおきなかぶ」



大学祭のチラシ



受付



廊下の装飾



1回生 A クラス おつかいゲーム



1回生 B クラス キャラクター探し



2回生 B クラス 風船・折り紙教室



1回生 C クラス 子どもアスレチック



2回生 A クラス 縁日



2回生 C クラス 劇「おおきなかぶ」

◆学生の感想

1回生Bクラス

キャラクターを見つけた時はもちろん、ゲームで正解し、シールをもらえた時の子どもたちはとても嬉しそう
で、私も嬉しくなりました。子どもが喜ぶと、保護者の方も笑顔になり、私達に「ありがとうございます」と感謝してくれました。保護者の方と関わる機会が今まであまりなかった
ので、良い体験ができたと思います。

2回生Cクラス

実行委員である私は「練習を円滑に進めないといけない」「本番まで時間がない」と、とても焦っていました。そんな私を支えてくれたのがクラスのみなでした。協力して準備をしてくれて、頑張ろうと声をかけてくれました。私はその声掛けに助けられ、当日までやっていくことができました。クラスのみなには本当に感謝しています。本番も、子どもたちに喜んでもらえて、大成功だったと思います。